

不動院寺報

不動院と檀家と

第1号 令和元年 12月
 発行人 住職 片岡卓治
 編集人 総代長 鈴木裕士

住職からのご挨拶



第38世 片岡卓治住職

私、去る三月二十二日、八十六歳にて遷化いたしました師父、片岡住夫僧正の後を受けて、真言宗豊山派管長田代弘興猊下より、不動院第三十八世住職を拝命いたしました。

常日頃から生涯現役を口にしていた先代住職は、精力的に壇務をこなし、本堂建立、墓地の造成と、僅か一代でもって一山を興したといっても過言ではありません。亡くなった当日も葬儀の予定が入っており、その準備を進めていたところでした。それゆえ突然の別れは私たち家族にとって現実として受け入れ難く、非常に大きな衝撃を受けました。心の平静さを保てない中、密葬、本葬

と滞りなく済ませることができたのも、総代、世話人様をはじめ、檀家の皆様方の温かいご支援のお蔭と深く感謝しております。また、葬儀の際には鄭重なご弔意、ならびにご香志を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さらには、皆様からのご浄財により、立派な石塔を建立することができ、四十九日の法要の際には開眼供養も無事執り行うことができました。檀家の皆様に墓石を建てていただきましたというのが、故人の予てからの願いでありましたので、さぞかし喜んでおられることかと思えます。

私は住職を拝命してからの日はまだ浅く、浅学非才の身ではありますが、先師の名を汚さぬよう、当山発展のために力を尽くしてまいりたいと考えています。引き続き皆様からのご教導を賜りますよう、臥してお願ひ申し上げます。

住職へのインタビュー

Q 生まれた年・月は？
A 昭和三十五年六月です。

Q 家族構成は？
A 妻、長女・次女（双子）、長男の五人です。

Q 中・高校で夢中になったことは？
A 推理小説が好きで読みまくっていました。松本清張は、殆ど読破しました。

Q (先代住職以外で) 尊敬する人物は？
A オットー・フォン・ビスマルク
 彼がドイツの宰相であり続けたら、世界の

歴史は変わっていたと思います。

Q 座右の銘は？
A 精神一到何事か成らざらん
 努力目標にしています。

Q 高校の教師をされていたとのことですが受け持ちの教科は？
A 四月十三日をもって、水戸三高を退職いたしました。主に世界史を担当し、公務員試験対策の指導もしていました。

Q 生徒からつけられたニックネームがありましたらお願いします。
A 近年は歳を取ってきたので、ニックネームで呼ばれることはありませんでしたが、学年主任をしている時には、「片ピー」と呼ばれていました。

Q 好きな芸能人は誰？ 何故？
A 田所あずさ（アニメ声優） 三高時代の教え子です。在学中に第三十六回ホリプロ・スカウトキャラバン次世代声優アーティストオーディションでグランプリを受賞しました。とにかく性格がよかったです。

(田所あずさ アニメ声優 出演作の一部)

呉屋せわし子@健康全口ポダイミダラー



佐々木梓@響け! ユーフォニアム



Q 好きな食べ物は何？
A イクラ、ウニ、たこ焼き、ラーメン

〔三學山 岩崎寺 不動院〕 お寺の名称・由来と歴史

三學山の名は？



表参道から山門本堂を望む

空海や最澄のころから平安時代となり、日本では山岳仏教が浸透してきました。そのために街中にあつた寺院から人里離れた山中に寺院が建立されるようになり、そこが修行の場であることを示すために山号が名付けられるようになりました。一般的にはその山の名称を付与することが多いです。当山は「三學山」と号しますが、その由来については調べてみても分りませんでした。因みに、三学とは仏道を修行する者が必ず修めべき基本的な修行項目で、戒学（かいがく）、定学（じょうがく）、慧学（えがく）を指します。戒学は戒律を守っていくこと、定学は精神を集中させて心を散乱させないこと、慧学は煩惱を離れ全ての事柄の真実を見極めることです。

あくまで私見ですが、当山は三方を愛宕山、館岸山、鐘転山の三山に囲まれており、この地で三学を修めていくという意味で「三學山」と名付けられたのではないのでしょうか。

不動院ガイド



本堂全景



本堂内 天蓋・幢幡等の飾り付け

《不動院からのお知らせ》

1. お施餓鬼について
お施餓鬼の法要は、新盆の檀家の方や役員が参列して八月十六日に行ってきましたが、令和二年からは毎年、近隣の同じ宗派の住職にも参列いただき、八月四日に行うことといたします。
2. 新墓地管理について
樹木の伐採・除草等による新墓地整備事業が完了し、同時に中腹にある水道についても安定して水を供給できるようにいたしました。今後も現状を維持すべく管理して参りますが、皆様にも、次の点につきご協力いただければ幸いです。
① お墓の前の通路や法面の除草の実施
② 発生したゴミ、空缶等は持ち帰るか又は所定場所へ捨てて下さい。
③ 車の乗り入れは、水道前の駐車スペースまでとして下さい。

編集後記

普段はあまり接することが無いお寺・菩提寺を、身近に感じていただけるよう、この紙面を創刊しました。これから年に1、2回発行していく予定ですが、タイトルにありますように、お寺と檀家の意思疎通の場になることを願っております。ご意見やご質問等がありましたら、ご遠慮なく不動院までお寄せ下さい。

〔編集員〕 総代長 鈴木 裕士